お祖師さまの教えを正しく受け継がれた先師先聖物語 第8回

永仁二年（一二九四）、お祖師さまの十三回忌の年。この年の四月二十八日（お祖師さまが初めて御題目を唱えられた立教開宗の日）に、日像上人は京都御所の門前に立ち、御題目をお唱えされたんだ。そして、お祖師さまとのお約束を果たすべく京都でのご奉公を開始されたんだね。

今回は、日像上人の京都でのご奉公で有名な「三黜三赦」というお話と、日像上人の最期のご様子をお話しするよ。

日像上人②

三黜三赦

京都の地で日像上人がご説法をはじめられると、たちまち有力な商工業者の人たちが御題目のご信者となっていったんだ。あまりに御題目のご信者が増えていったために、比叡山（天台宗）をはじめとする他宗派の強い反発を受けることになってしまうんだ。

特に、当時の日本の仏教の中心的な存在であった比叡山は、日像上人を「誤った教えを弘める悪い僧」と朝廷（天皇が政治を行う所）にざん訴（他人をおとし入れようとして事実をまげて言いつけること）したんだよ。

この誤った訴えを信じた朝廷は、日像上人を洛外（京都のそと）に追放（追い払うこと）するんだ。しかし、暫くして日像上人は赦免（許され）て京都に戻ってこられるんだ。そして、日像上人が再び布教活動を開始されると、またご信者が増えていき、比叡山や他宗派の反感を買い洛外に追放されてしまうんだ。

後醍醐天皇より賜った勅願寺としての証（重要文化財・妙顕寺蔵）

永仁２年（1294）４月28日、日像上人ははじめに京都御所の門前で御題目をお唱えされ、京都でのご奉公のスタートを切られた

日像上人は京都の都を追放されたり戻ったりを三度も繰り返されたんだ。一回目が徳治二年（一三〇七）の土佐（高知県）への配流（島ながし）。二回目が翌三年（一三〇八）の紀伊（和歌山県）への配流。三回目は元亨元年（一三二一）の洛外追放。これを「三黜三赦」というんだよ。

三回目の「追放と赦免」の後、遂にその正法（御題目の正しいご信心）の正統性（正しさ）が天皇に伝わって、日像上人は「京都に御題目を弘めてもよい」という勅許（天皇のお許し）を賜わった（いただいた）んだ。そして妙顕寺というお寺を建てたんだ。日像上人が京都に来て二十八年目のことなんだね。

建武元年（一三三四）四月十四日には、「妙顕寺を勅願寺（国家の平安・皇室繁栄などを祈願するお寺）とする。御題目のご信心を弘め、四海泰平（天下・世界平和）を祈りなさい」と後醍醐天皇の御綸旨（天皇からの命令文書）を賜わったんだ。

お祖師さま（日蓮聖人）からの帝都（京都）に御題目を弘めなさいとの御遺命（亡くなる時に残した命令）を日像上人は見事に達成されたんだね。

日像上人が創建され後醍醐天皇の御綸旨を賜った勅願寺である妙顕寺

日像上人のご入滅

興国三年（一三四二）の春、日像上人は身延（山梨県）、鎌倉（神奈川県）、池上（東京都）と、お祖師さまが廻られた所を参詣され、そして故郷の平賀（千葉県）を旅されたんだ。

同年十一月、妙顕寺をお弟子の大覚大僧正に譲られ、お祖師さまの御命日と同じ十三日に御年七十四歳でご入滅されたんだ。帝都弘通に全てを捧げてこられた尊いご生涯だったんだね。

日像上人の絵図（重要文化財・妙顕寺蔵）